

クビアカツヤカミキリの被害から サクラ・モモ・ウメを守るために



この虫を知っていますか？
見つけたら駆除してください！！

このリーフレットは、サクラ・モモ・ウメ等のバラ科の樹木に被害を及ぼす特定外来生物^(※)「クビアカツヤカミキリ」についての生態や特徴、この虫を見つけた時の対応等に関する情報を記載しています。

※「特定外来生物」とは、生態系等に係る被害を及ぼし、又は及ぼすおそれがあるものとして、外来生物法（特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律）によって指定された動物や植物などの外来生物です。特定外来生物は、外来生物法において、飼養（飼育）・保管、運搬、輸入、販売、譲り渡し、野外へ放つことが禁止されています。

クビアカツヤカミキリとは

【クビアカツヤカミキリ】

分類：コウチュウ目・カミキリムシ科
体長：2～4cm（成虫）
分布：中国、朝鮮半島、ベトナムなど
被害樹種：サクラ、モモ、ウメなどのバラ科樹木

☆クビアカツヤカミキリの特徴

- からだ全体が黒く光沢がある
- 頭部の下（前胸の一部）が赤く、突起がある
- 成虫はジャコウのような匂いを放つ



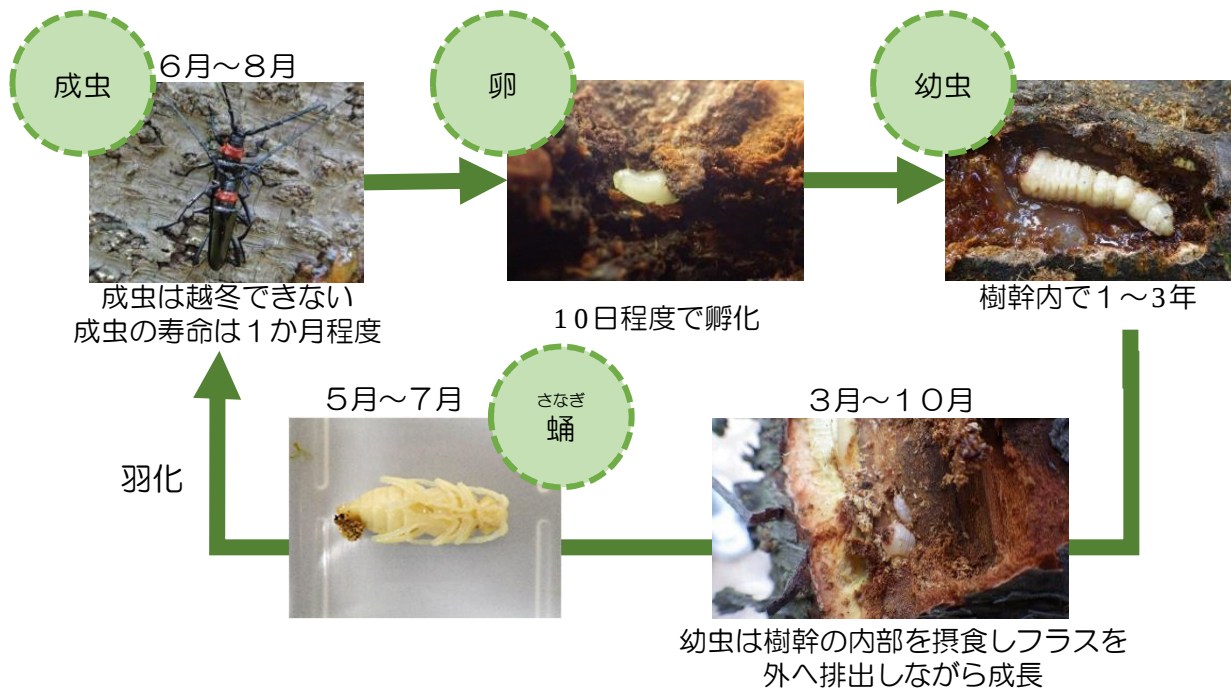
オス（触角が長い）



メス（触角が短い）

【クビアカツヤカミキリの生活環】

- メスの成虫は交尾後、幹や枝の樹皮の割れ目などに産卵する。1個体あたり約300個産卵する。
- 10日程で卵が孵化し、幼虫が出現する。幼虫は樹幹に食入し、樹幹内で1～3年かけて成長する。
- 幼虫は3月～10月にかけて活動し、樹幹から**かりんとう状のフラス（木くず・糞の混合物）**を排出する。
- 孵化後1年目から3年目の5～7月にかけて蛹になり、その年の6月～8月に成虫が出現する。



幼虫が排出したフラスの特徴



かりんとう状に固まる



樹幹の下部に多い



地面に落ちたフラス

クビアカツヤカミキリの被害状況

府内では平成27年に大阪狭山市で初めて確認されて以降、南河内地域を中心に、被害が広がっています。最新の分布状況は大阪府のクビアカツヤカミキリHPをご覧ください。

生活環境被害

公園や街路などのサクラが加害されると景観が悪化したり、枯れた枝が落ちてケガをするおそれがあります。

農業被害

モモ、ウメなどのバラ科の果樹を加害し農業被害をもたらします。

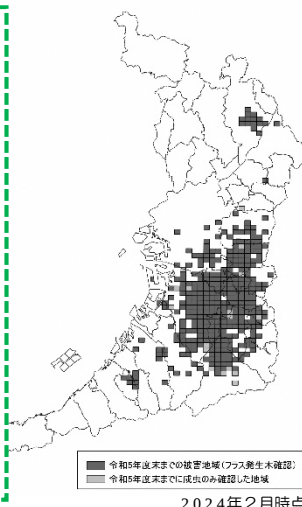
生態系被害

ヤマザクラ等の野生のサクラ類への被害や、在来カミキリムシとの生息地の競合など、生態系への影響も懸念されています。

被害が確認された市町村

(2024年6月時点)

- 北部** : 高槻市・島本町
豊中市・吹田市
- 中部** : 大阪市・寝屋川市
枚方市・東大阪市
八尾市・柏原市
- 南河内** : 松原市・藤井寺市
羽曳野市・太子町
河南町・大阪狭山市
富田林市・河内長野市
千早赤阪村
- 泉州** : 堺市・高石市
泉大津市・和泉市
岸和田市・貝塚市
熊取町



2024年2月時点

被害防除対策（留意点）

《予 防》

◎早期発見の観点から、定期的に巡視を行い、樹幹から排出されるフラスの有無を確認してください。

《防 除》

農薬を使用しない防除

◎他の樹木への移動を防ぐために、防風ネットを食入孔（フラスの発生した孔）のある樹幹に巻き付け、樹幹から出てきた成虫を駆除します。

ただし、樹木とネットを密着させると食いやぶるおそれがあるため、余裕をもたせて巻き付けます。

農薬を使用する防除

◎幼虫の防除

食入孔またはドリル等により開けた穴から、樹幹に農薬を注入します。

◎成虫の防除

農薬を、樹木に散布します。

※農薬を使用する際は必ずラベルの記載内容を確認し、使用基準等を遵守してください。

《伐 採》

◎加害された樹木は、倒木するおそれがあるため、伐採やバラ科以外の樹種への植替えも検討してください。

なお、伐採後も幼虫は木の中で生き続け、成虫になることができるため、伐採した木は放置せず、速やかに焼却又は粉砕する必要があります。

※伐採木の運搬や保管は、外来生物法に基づいた適切な処理をする必要がありますので、ご注意ください。

<参考> 特定外来生物による生態系等に係る被害の防止に関する法律の規制に係る運用

(<https://www.env.go.jp/nature/intro/1law/law.html>)

【防除対策には次の手引書も参考にしてください】

「クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書」（大阪府立環境農林水産総合研究所作成）

（大阪府HPにも掲載しています⇒<http://www.pref.osaka.lg.jp/midori/seibututayousei/kubiaka.html>）



防風ネット設置



食入孔に農薬を注入



樹幹に農薬を注入



農薬散布



よくあるご質問



クビアカツヤカミキリの成虫を見つけたらどうしたらいいの？

可能であれば、「その場で踏みつぶす」「殺虫剤をかける」「アルコール消毒液や液体ハンドソープを入れた瓶に入れる」などで駆除してください。
被害が確認されていない地域で発見された場合は、市町村等に連絡してください。
※クビアカツヤカミキリを生きたまま持ち運ぶことは、法律で禁止されています。

クビアカツヤカミキリの幼虫が出すフラス（木くず）ってどんなの？

クビアカツヤカミキリのフラスは、かりんとう状に連なっていることが多いと言われます。
フラスを崩すと、木くずはアイスクリームをスプーンですくったときにカールするような形と言われます。
色は、オレンジから褐色です。
被害地域又はその周辺3km圏内で、サクラの木からフラスが出ている場合は、クビアカと考えて対応してください。

フラスを見つけたらどうすればいいの？

ご自分の木の場合は、できるだけフラスを掻き出し、ノズル式の殺虫剤（薬剤の種類は「クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書」に掲載）をあふれるくらい注入して、フラスが止まるまで2～3日おきに確認し、殺虫を続けてください。
樹皮を剥いで幼虫を直接駆除する方法もありますが、樹を傷めるリスクがあるため、慎重に行ってください。
公有地の木で発見した場合は、お手数ですが、施設管理者にご連絡ください。

クビアカツヤカミキリが入った木は、必ず伐採しないといけないの？

早期に発見し適切に対策すれば、伐採せずに回復する可能性が高いため、早期発見がとても重要です。
しかし、被害がひどい場合は、周辺への拡散を防ぐため、伐採した上で、チップーでの破碎や焼却処分など適切に処置する必要があります（根株についても、伐根又はシート被覆することが望ましいです）。
個人での伐採は危険を伴いますので、造園業者や各市町村の造園業者の協同組合等にご相談ください。

被害が出る前に予防したいけど、どんな方法があるの？

成虫発生期の6～8月に、クビアカツヤカミキリで使用可能な薬剤を調整希釈し、樹幹に複数回処理してください。また、新葉展葉後から落葉までの間（4月下旬～9月）に樹幹注入を行う方法もありますが、薬剤によって時期や効果が異なります※。
幹へのネット巻による予防も有効ですが、なるべく目の細かいネットをふんわり巻くなど、効果を高めるための巻き方があります※。

※詳細は「クビアカツヤカミキリ被害対策の手引書」を参照してください。



- クビアカツヤカミキリに関するお問い合わせは、右のQRコードのサイトから、各市町村、又は大阪府の外来生物担当へお問い合わせください。
- 大阪府では、「大阪府クビアカツヤカミキリ防除推進計画」に基づき、効果的な防除を進めます。皆様のご理解とご協力をお願いします。



 **大阪府** 環境農林水産部みどり推進室みどり企画課
〒559-8555 大阪市住之江区南港北1-14-16 咲洲庁舎22階
TEL:06-6210-9557、FAX:06-6210-9551
メールアドレス：
midorikankyo-g05@sbox.pref.osaka.lg.jp



大阪府 クビアカ

